

令和3年度 第6回岩村地域自治区運営協議会役員会

日 時 令和3年12月21日(火) 19時30分
場 所 岩村コミュニティセンター大会議室

1. 会長あいさつ

2. 服部市議あいさつ

3. 議事

①旧岩村振興事務所の活用について (P2～P5)

②地域のまちづくり補助金の選定について (P6～P13)

・地域単独事業の選考について (P6～P7、別紙)

・地域間連携事業の申請について (P8～P13)

4. 連絡・報告事項

①「岩村城跡」等の看板設置について (P14～P16)

②岐阜県要望の結果について (P17)

③太陽光発電所について (資料なし)

④新型コロナウイルスワクチンの接種について (P18～P20)

⑤令和3年度恵那市市民意識調査結果〈抜粋〉について (P21～P32)

⑥2021ふるさと創生花火について (別紙チラシ)

⑦全国山城サミット恵那大会について (別紙チラシ)

5. その他

次回の会議 1月 日 ()

令和2年8月31日

恵那市長 小坂喬峰 様

岩村地域自治区運営協議会
会長 西尾公男



旧岩村振興事務所の活用方法案の提言について

時下、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は岩村町のまちづくりに対して格別なるご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成25年度から岩村振興事務所と岩村コミュニティセンターの今後の在り方について議論を重ね、その結果として平成29年度に岩村振興事務所の機能が岩村コミュニティセンターへ移転されましたが、旧岩村振興事務所庁舎の活用方法は決まらないまま、現状では庁舎の一部を観光休憩所と行政資料等の倉庫として活用している状況です。

このような状況下において、岩村地域自治区運営協議会では、旧岩村振興事務所が一日も早く有効に活用できるよう、令和元年度から延べ8回の議論を重ねてまいりました。この議論の過程では、全市的に受益のある施設として生涯学習の推進、佐藤一斎をはじめとする先人顕彰、文化財の保存と活用、観光振興の視点で議論してまいりました。

つきましては、旧岩村振興事務所の活用方法案を以下のとおりまとめましたので、提言します。

記

1. 旧岩村振興事務所改修及び活用方法についての基本的な考え方

(1) 生涯学習及び恵那市が誇る先人顕彰の拠点施設

- ・平成23年4月1日に制定された生涯学習都市「三学のまち恵那」宣言に基づき、恵那市民が生涯学習を行うための拠点施設。
- ・佐藤一斎をはじめとする恵那市が誇る先人を顕彰するための施設と位置付け、恵那市民の先人教育や市外からの来訪者も研修等ができる施設。

(2) 歴史・文化を活かした拠点施設

- ・現在の岩村歴史資料館には展示できていない歴史資料等が多数あること、また収蔵庫も手狭なため、町民からの寄附等が受けられない状況（市長と語るまちづくり懇談会でも意見あり）であるため、旧振興事務

所に展示及び収蔵スペースを設ける。

- ・恵那市内には多くの文化財等があるが、これを広く市内外の方々に観覧していただくための展示スペースを設ける。
- ・恵那市全体の観光に関する情報発信拠点。

2. 旧振興事務所の具体的な活用方法（案）

(1) 1階

- ・特別企画展ブース（市内のさまざまな文化財等を展示）
- ・恵那市13地区の先人の部屋
- ・岩村歴史資料館に展示されていないものの展示ブース
※古文書ならび歴史的書を中心に展示
- ・観光案内所

(2) 2階

- ・生涯学習研修室(TV会議システム等によるオンライン研修機能を併設)
- ・生涯学習展示室
- ・生涯学習資料室
- ・下田歌子・三好学・佐藤一斎 3先人の部屋
- ・生涯学習センター事務所

3. 管理運営体制について（案）

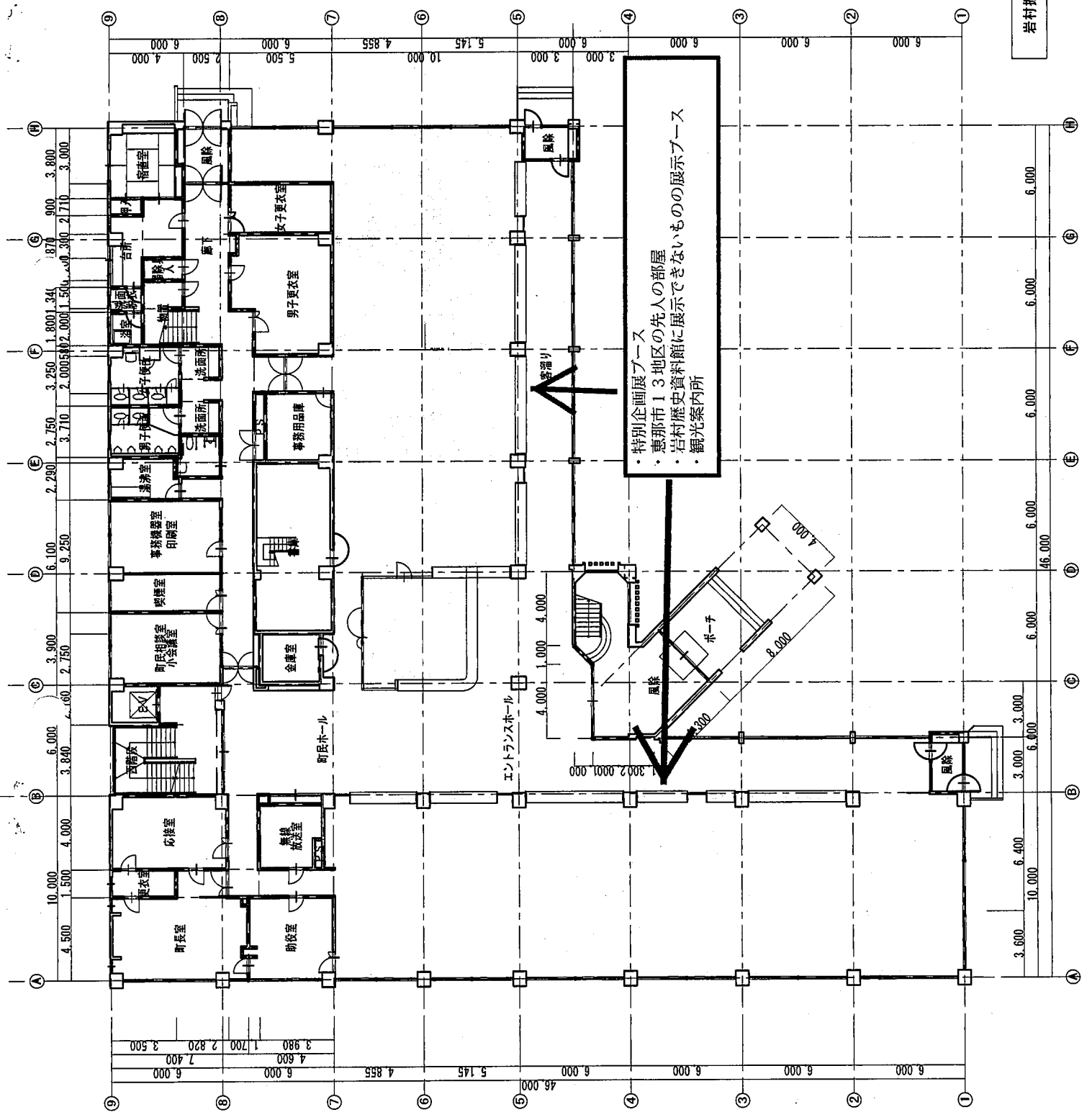
- ・1階は恵那市観光協会岩村支部
- ・2階は恵那市教育委員会
※運営については「いわむら一斎塾」等がサポート

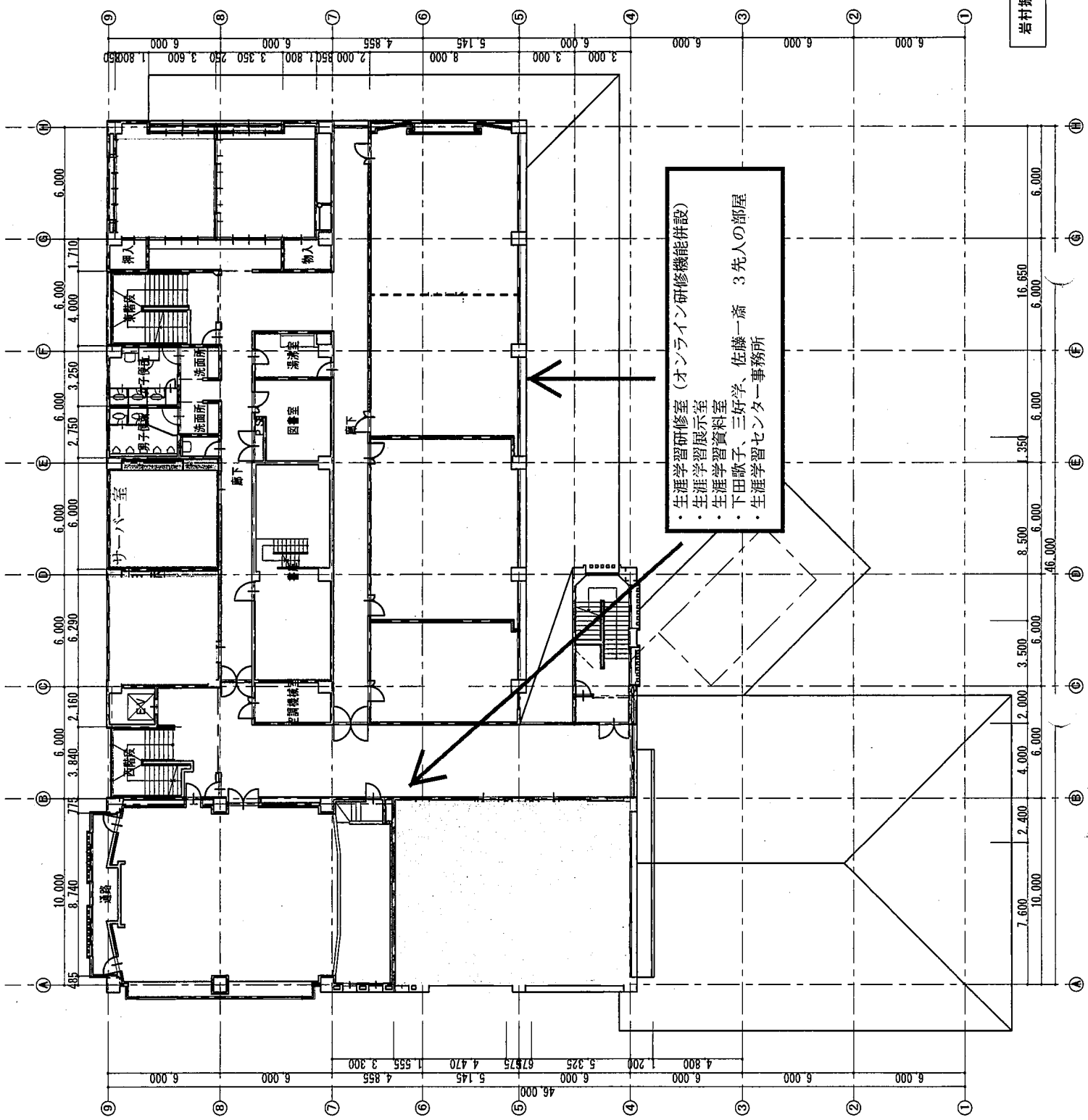
4. 本案作成に当たって参考にした計画等

- ・第2次恵那市総合計画地域計画（岩村地域自治区）
- ・岩村グランドデザイン（観光まちづくり指針）
- ・恵那市三学のまち推進計画
- ・恵那の先人 三十人
- ・恵那市歴史的風致維持向上計画
- ・恵那市観光ビジョン

5. 添付資料

旧岩村振興事務所平面図





・生涯学習研修室 (オンライン研修機能併設)
 ・生涯学習展示室
 ・生涯学習資料室
 ・下田歌子、三好学、佐藤一斎 3先人の部屋
 ・生涯学習センター事務所

令和4年度地域のまちづくり活動補助金 申請事業の選考について(地域単独)

1. 協議事項

地域単独事業として申請された6事業に優先順位を付け上位5事業を選定

地域単独事業

地域自治区	順位	事業名	目的	活動内容	総事業費	申請金額	備考
岩村		町並みの賑わい創出・地域活性化事業	空き店舗の入居推進、商店街の賑わいの創出及び地域活性化を目指す。	・空き店舗対策 ・ひなまつりの開催	1,200,000	500,000	継続 H28～
		交流人口拡大・活性化事業	地域の活性化と、関係人口の拡大と地域住民の意識改革を図る。	・ふるさとゆかりの郷協定市町との交流 ・いわむら城下おかげまつりの開催	800,000	500,000	継続 H28～
		体験プログラム「いわむら五っこ」提供事業	岩村らしさを大切に体験プログラムの造成と提供をする。	・プログラムの提供 ・作品の展示ギャラリーの設置 ・作品の販売所・コーナーの設置	455,000	350,000	継続 H29～
		こども塾事業	こどもたちが参加、体験できる様々な文化活動や交流の機会を充実する。将来、地域で活躍できる人材を育成する。	・田んぼ体験(田植え、稲刈り) ・文化伝承(土雛作り) ・秋のふれあいウォーキング ・トラクターイルミネーション ・まちなか子ども作品展	775,000	500,000	継続 H28～
		歴史文化の伝承・保存事業	子供から大人まで幅広い層に至るまでの「人づくり」「心そだて」を活かしたまちづくりの推進を図る。	・木版に刻まれた言葉の現代語訳のデジタルデータの作成(QRコード) ・木版の交換・補修	500,000	500,000	継続 R2～
		いわむら城下町 路地カラ事業	岩村城下町を路地から活性化させる。観光客、ヨソモノの目で良いところを探す。住民自らの手で路地からのブラッシュアップ。地元もヨソモノも住みたくなるまちづくり	・手描き地図づくり ・路地カラ！参加型ホームページ構築と公開 ・路地カラWS開催	555,000	500,000	新規
	計				4,285,000	1,950,000	0

2. ヒアリング日程等について

日時等：令和4年2月1日（月）13時～14時 市役所4階第1委員会室

出席者：〈市〉鈴木誠教授、安藤克典まちづくり企画部長、熊谷春彦まちづくり企画部次長

：〈地域〉振興事務所職員、※今年度は地域自治区運営協議会からの出席可

令和4年度地域のまちづくり活動補助金 申請事業について

1. 公募結果

ホットいわむらだより8月号で公募(R3.9.13.〆切)した結果、6事業の応募

2. 令和4年度申請予定事業

下記6事業の中から5事業を選定して申請。

地域単独事業

地域自治区	順位	事業名	目的	活動内容	総事業費	申請金額	備考
岩村	1	町並みの賑わい創出・地域活性化事業	空き店舗の入居推進、商店街の賑わいの創出及び地域活性化を目指す。	・空き店舗対策 ・ひなまつりの開催	1,200,000	500,000	継続 H28～
	2	交流人口拡大・活性化事業	地域の活性化と、関係人口の拡大と地域住民の意識改革を図る。	・ふるさとゆかりの郷協定市町との交流 ・いわむら城下おかげまつりの開催	800,000	500,000	継続 H28～
	3	いわむら体験プログラムまるごと提供事業	目線の違う町の楽しみ方の提案、観光客の滞在時間の延長、リピーターの獲得、いわむらファンの獲得(地域イメージの向上)、地域資源・人的資源の掘り起こし	・プログラムの提供 ・作品の展示ギャラリーの設置 ・作品の販売所・コーナーの設置 ・田んぼ体験(田植え、稲刈り) ・文化伝承(土雛作り) ・秋のふれあいウオーキング ・トラクターイルミネーション ・まちなか子ども作品展	1,035,000	500,000	継続 H29～
	4	歴史文化の伝承・保存事業	子供から大人まで幅広い層に至るまでの「人づくり」「心そだて」を活かしたまちづくりの推進を図る。	・木版に刻まれた言葉の現代語訳のデジタルデータの作成(QRコード) ・木版の交換・補修	500,000	500,000	継続 R2～
	5	いわむら城下町 路地カラ事業	岩村城下町を路地から活性化させる。観光客、ヨソモノの目で良いところを探す。住民自らの手で路地からのブラッシュアップ。地元もヨソモノも住みたくなるまちづくり	・手描き地図づくり ・路地カラ！参加型ホームページ構築と公開 ・各種参加体験型イベント	555,000	500,000	新規
	計					4,090,000	1,950,000

事業名 恵南地区山城普及啓発による地域活性化事業計画書

区分	地域単独事業 ・ 地域間連携事業
事業名	恵南地区山城普及啓発による地域活性化事業
事業実施団体名 (組織名)	実施団体名(組織名) ・ 構成員人数 ・ (一社) 恵那市観光協会岩村支部 ・ 各地区まちづくり団体
該当する地域計画の柱及び施策	柱(目標) : 恵那らしさを活かした、うるおう地域 基本施策 : 交流と連携で地域の活力アップ
事業概要	【内容】 令和4年度に本市で開催される全国山城サミットを契機に、恵南地区内(岩村、山岡、明智、串原、上矢作)の山城の洗い出しと磨き上げを行い、地域の活性化を図る。具体的な事業として「山城ガイドブックの作成」と「山城御城印の作成」を計画。 【事業実施期間(年数)】 3年(内容を見直しながら継続)
事業の目的及び内容	【現状及び課題】 現在、恵南地区には30以上の山城があるが、その多くは地元の人あまり知らない状況である。また、恵南地区内の山城は歴史的に関係性の深い城が多く、それぞれの城を結び付けた普及啓発が求められている。令和4年度に本市で開催される全国山城サミットに向け、地域における機運の醸成や山城のPRが課題である。 【目的】 令和4年度に開催される全国山城サミットを契機に恵南地区に点在する30カ所程度の山城を洗い出し、その磨き上げを行うことにより地域の活性化を図る。 【具体的な内容】 ①恵那市南部地域にある30カ所程度の山城ガイドブックの作成 ②恵那市南部地域にある30カ所程度の山城御城印の作成

活動スケジュール	期	活 動 内 容
	4 月	
	5 月	第 1 回会議（仕様等の確認、原稿作成）
	6 月	ガイドブック・御城印の作成
	7 月	
	8 月	
	9 月	第 2 回会議（原稿の最終校正）
	10 月	全国山城サミット
	11 月	第 3 回会議（今年度の反省・次年度計画づくり）
	12 月	
	1 月	
	2 月	
	3 月	

事業により見込める効果	<p>恵南地区内には岩村城や明知城以外にも歴史的価値が高い山城があり、また歴史的なつながりもあることから、恵南地区全体で連携して取り組むことにより相乗効果が期待でき、山城観光の起爆剤となる。</p>
事業費 (全体事業費)	1,000,000円
設備、備品等の 維持管理方法	
連携する地域(地域 間連携事業のみ)	恵南地域
連携事業の方法 (地域間連携事業のみ)	各地域の山城を抽出し、ガイドブックと御城印を作成する。ガイドブックや御城印は各地域の観光協会等が主体となって地元住民への普及啓発と観光客等へのPRを図る。
その他特記事項	

収支予算書

(1) 収入の部

(単位：円)

項 目	数 量	単 価	金 額	説 明
補助金			1,000,000	
合 計			1,000,000	

(2) 支出の部

項 目	数 量	単 価	金 額	説 明
山城ガイドブックの作成	1,000	435	435,000	A5サイズ・40ページ 両面4色 刷り 無線綴
御城印データ作成等	1式		435,000	30箇所御城印作成
上記消費税			87,000	
事務費			43,000	消耗品、通信運搬費
合 計			1,000,000	

事業名 広域観光による地域活性化事業計画書

区分	地域単独事業 ・ 地域間連携事業
事業名	広域観光による地域活性化事業
優先順位	地域間連携事業：_____位
事業実施団体名 (組織名)	実施団体名(組織名) ・ 構成員人数 ・ 恵那市恵南商工会 ・ 各地区まちづくり団体
該当する地域計画の柱及び施策	柱(目標)： 恵那らしさを活かした、うるおう地域 基本施策： 交流と連携で持続可能な地域活力アップと産業育成
行動計画の位置づけ	【内容】 令和4年度に「全国山城サミット」が恵那市で開催されることを契機に、恵那市南部地域の豊かな自然・歴史・文化・食などの魅力等を発信し、うるおう地域づくりをめざして地域連携を行う。地域の山城等の周遊体験を通じて地域の魅力アップを図り、観光交流人口の増加と地域産業の育成を目指す。 【事業実施期間(年数)】 5年(内容を見直しながら継続)
事業の目的及び内容	【現状及び課題】 新型コロナウイルス感染症の猛威により、地域イベントの中止や観光交流人口の大幅な減少により、恵南地域は過疎化の進行とともに疲弊を懸念している。地域の持続的発展をめざすため、恵那市・恵南地域が連携して内外に向けた戦略的な情報発信していくことが求められている。 【目的】 昨年大河ドラマ「麒麟がくる」の放映を契機に、この地域の戦国歴史が注目を浴び、多くの山城や出城の存在を活用した戦国歴史観光を推進する。それぞれが個々の点ではなく、恵南地域が点と点を結ぶ連携をすることにより、恵南地域全体としての魅力づくりや周遊観光することで交流人口の誘致と増加を図り、地域産業の持続的発展を促す。 【具体的な内容】 ①戦国歴史観光推進を通じて、多くの山城・出城の紹介とそれをめぐる周遊と地域フードや地域特産品の体験等を連携させた事業(デジタルスタンプラリー)を実施し、恵那らしい食文化や特産品の振興でうるおう持続可能な地域に繋げる。

活動スケジュール	期	活 動 内 容
	4月	
	5月	
	6月	第1回会議
	7月	
	8月	
	9月	第2回会議
	10月	【全国山城サミット】
	11月	
	12月	
	1月	第3回会議
	2月	
	3月	

↑

戦国歴史観光推進を通じて、多くの山城・出城の紹介とそれをめぐる周遊と地域フードや地域特産品の体験等を連携させた事業（デジタルスタンプラリー）を実施

↓

事業により見込める効果	地域間連携で多くの山城・出城をめぐる戦国歴史観光推進をすることで、各地域フードや特産品の魅力体験で、恵那らしさを追求したうおう地域に増幅させ、併せて「地域ならではの食文化・土産物等の紹介や体験する事業を実施することで、さらなる地域の魅力アップを図ることができ、食事や泊など観光消費の増加と地域産業の育成が図られる。
事業費 (全体事業費)	1,200,000円
設備、備品等の 維持管理方法	
連携する地域(地域 間連携事業のみ)	恵南地域
連携事業の方法 (地域間連携事業の み)	戦国歴史観光推進のため、多くの山城・出城をめぐる周遊と地域フードや地域特産品の体験等を連携させた事業（デジタルスタンプラリー）を実施し、恵那らしい食文化や戦国歴史を通じてうおう地域に繋げる。また、今後の連携事業についても研究する。
その他特記事項	

収支予算書

(1) 収入の部

(単位：円)

項 目	数 量	単 価	金 額	説 明
恵那市恵南商工会			200,000	
補助金			1,000,000	
合 計			1,200,000	

(2) 支出の部

項 目	数 量	単 価	金 額	説 明
スタンプラリーチラシ 作成印刷折込			700,000	東濃・豊田の一部地区 チラシ印刷・折込料
デジタルスタンプラリ ー構築費用			300,000	構築費一式
スタンプラリー景品			200,000	抽選で特産品等プレゼント @3,500×20個 70,000円 特別賞 @2,000×10個 20,000円 消耗品費 70,000円 通信費 40,000円
合 計			1,200,000	